

---

# モンスター・ハンター 朱空の物語

桜クライアント

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

モンスター・ハンター　朱空の物語

### 【Zコード】

Z3407E

### 【作者名】

桜クライアント

### 【あらすじ】

新米ハンターのヘルダは、やつとイアンクックを倒し終わり、念願のブレイズブレイドのために鉱石堀りを続けていた。そして鉱石を掘り終え家に帰った。

## 第1話・竜王・（前書き）

ゲーム版のモンスターハンターには存在しない武器が現れたりします。

なるべく忠実に書いてゆくつもりです。

多少衝撃的、およびグロテスクな表現を使う場合がありますので、お嫌いな方は戻る、および左キー等を押して戻ってください。

では、楽しんでいただければ何よりです。  
どうぞ。

## 第1話・竜玉・

ふう…

「ちくしょひ。 いじやあもう鉱石は取れねえかな」

ピッケルを肩に背負い直し、大きくため息をつく。

つここの間

『2008年度 武器カタログ』に載っていたブレイズブレイドといつ武器に一目惚れし、俺はブレイズブレイドをつくると躍起になつているところなわけだ。

「しかし…氷の結晶なんかなかなかないよなあ」

俺はいま、とある密林に採集しにきている。

最近はやつとイアンクックを倒せるようになつたといりで、こまちよつビイヤンクックを倒し終わり、採集に夢中になつてゐるといつわけだ。

「ふああ…ああ…つべ…」

眠い。

「……帰るかー」

「」からキャンプまでは意外と距離がある。

モードリ玉使うか。

緑色の玉をポーチから取り出し、地面に思い切りたたきつけた。

わて、ネコタクチケットは……。

ポーチの中を探り、ネコタクチケットを取り出す。

ネコタクチケットを納品物品入れに入れると、どこからともなくアイルーが飛んでくる。

「ぶにゃつー採集終了ですかー」や？」

「うふ。わざわざありがと」

「いえいえ！これがわれわれのお仕事なのですー」やー。」

アイルーはそう言ったあと、大きく鳴いた。

「では、ギルドに戻つてくださいー」や。報酬品等は向ひつでお渡しますー」や」

「ありがと。じゃあ先に帰らせてもらひつよ」

「はいですー」やー。クエストクリアですー」やー。」

そういうとアイルーは腰に携えたポーチから契約書を取り出し、自分の肉球のスタンプをぽんと押した。

ギルド内部～集会所～

俺がギルドへと戻つてみると、がやがやとハンターたちが雑談やら情報交換やらを楽しんでいた。

「おーうー」「ゾォールトン」とこの息子じゃねえか！ クエスト帰りかい？」

豪快なおやつさんガ俺に笑いながら話しかけてくる。

「やつだよおやつさん。でもその名前で呼ぶなって言つてんだろ？」

「がつはははははー！ なんでえーおめえの親父さんはいいハンターだつたぜー！ その名前に誇りを持ちなアー！」

「親父の七光りじやねえか。気に喰わねえんだよ！ 俺はヘルダだ！ ヘ、ル、ダ！」

「デゾォールトの息子に違いやねえやなー！ がつははははー！」

「…はあ、あんま飲みすぎんなよおやつさん」

とりあえず報酬をもらひて受け取つて行へーとこじよつ。

「…つかれたあー」

「お疲れ様でした。これが今回の報酬です」

受付嬢にそういわれ、報酬を受け取る。

「… 4500 ズか…まあまあかなあ…」

「それはそうと、今度一緒にお茶でもどう?」

「お断りいたします」

語尾にハートでもつきそうな勢いの笑顔で見事に断られた。

いつものことだし気にしないけど。

「素材報酬は後ほどお送りいたしますので、『血色』でお待ちください」

相槌を打ち、家に戻った。

「ただいまトンカツ」

そう呼ぶと「ひ」と、ブタにしては少し高い声でトンカツが迎えてくれた。

ふう…

ベッドに腰掛け、アイルーがくるのを待つ。

「ただいまですニヤー！」主人様！

「おかえりナタリー。どうだつた？」

背中に大量の素材を背負つたアイルーが窓に立つていた。

「まちまちですニヤ。耳が壊れていたようなので剥ぎ取り許可が降りましてニヤ。『怪鳥の耳』ですニヤ」

「うお、すげー。結構珍しいぞこれ。やつたなあい」

褒められて光栄ですニヤと胸を張つてナタリーは言つた。

「あとは…『火炎袋』がひとつ、鱗は3枚ほどですニヤ。甲殻は傷つきすぎていて使えませんでしたので剥ぎ取り許可が降りませんでしたニヤ。クチバシを丸ごと持つていこうと思いましたが…下顎に微量の傷が見られたため、これも許可が下りませんでしたニヤ」

「つーん…あんまりいい素材はないのか…残念だったな。いいよ、ナタリーそこに置いておいて」

了解ですニヤといふとナタリーは荷物をその場に下ろし、部屋の隅っこで寝始めた。

んー…まあ荷物を見てみるか。

……ん？これは…？

「ナタリー？この丸いのはなんだ？」

「へつー？あ、それは落ちていたので拾つてきましたニヤー・きれいな玉だつたのでおもわす…」

：確かにきれいだ。

吸い込まれそうな透き通つた緑色をしていた。

「まあいいや。じゃあ鍛冶屋にいってくるよ

「うーって家を出た。

「親方ー！？親方ー！いねえの一？」

大きな声で呼び続けること3分ほど。

中で聞こえていた鉄をたたく音が消え、バタバタと走つてくる音が聞こえた。

「あいよ、おう。ヘルダじやねえか。どうした

「これなんだけど、見てくれる？」

ん？と怪訝そうな顔を浮かべた親方に俺はネゴが拾つてきたきれいな玉を見せた。

すると親方は驚いたような顔で

「…」りやあ…竜玉か…？どうして…」んなもん

「ナタリーが拾ってきたんだ。なんかいい武器にならねえかな？親方」

「いやいや待て待て。うん……」つやあずいぶん良質な竜玉だ……待つてる」

そういうと親方は、中に戻つていってしまい、俺は取り残されてしまった。

しばらくまつと、あつた！といつ声が聞こえてきて、そのあとにまたバタバタと走る音が聞こえた。

「…ヘルダ、これだ。これになるぜ」

それはまるで古文書のよひつな古ぼけた本で、俺は何が書いてあるのかよくわからなかつた。

「…なんだよこれ」

「これだよ、これ。いつだか師匠にもうつた古代文献に竜玉を用ひ武器があつたんだ。それがこれだ」

そこに描いてあつた武器は

「竜碎…剣？珠…舞……」

そこには、柄の7倍はありそうな両刃を携えた大剣が描かれていた。

「そり！竜碎剣・珠舞・だ！」

「まさか、これを打てる口が来るなんてなあ……くう……ヘルダ！ゼひ俺にこいつを作らせてくれ！頼む！」

「いやいや、俺こそ頼むよ。こんな強そうな武器。俺だつてほしい。けど、素材はどうなんだ？意外といいもん使つんだろう？俺じやあ……」

「平氣だ。こいつの精製に必要なモンスターの濃汁はこのまえの余りがあるし、大地の結晶なら腐るほどあらあな！ひとつようなのは……鉄鉱石だな……10cmほどの塊が10個もありやなんとか」

鉄鉱石なら……

「あるぜ……ブレイズブレイド作るひとおもつてたんだが……頼んでいいかい？親方」

任せろ！…と親方は言った。

この剣が。

このひとつ目の竜玉が。

俺の人生を、大きく変えることになった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3407e/>

モンスターハンター 朱空の物語

2010年10月9日12時53分発行